

## 河川3 池田ダム(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島80	新編三野町史編纂委員会編「新編 三野町史」(三野町、2005年)、1126頁	<p>早明浦ダムと池田ダムの完成による洪水の軽減</p> <p>吉野川の洪水は、地元の集中豪雨や台風による洪水ばかりではなく、土佐地方の豪雨によっても発生する洪水であったから毎年九月の二百十日前後には大洪水に見舞われ、太刀野地区や勢力地区、加茂野宮地区、清水地区の稲作地帯や加茂野宮や清水の島地区の広大な桑園は濁流に吞まれ、甚大な損害を受けていた。町民はそれでも「この地域は吉野川の遊水地帯なので仕方がない、天災だ」と言って諦め、我が運命を嘆くのみであった。</p> <p>ところが、昭和四十年、新河川法が施行されて吉野川が一級河川となり、国の直轄河川となったために昭和四十二年、国は高知県本山町に計画していた早明浦ダムの本体工事に着手、続いて池田町に香川用水分水用及び北岸用水用の調整池田ダム建設に着手する一方、岩津地点から池田までの築堤による直轄治水事業に着手し、舞中島の用地買収を始めたのである。</p> <p>昭和四十八年十一月、吉野川の上流本山町に早明浦ダムが竣工し、続いて昭和四十九年六月池田ダムが完成したために、台風による大洪水はほとんどなくなったのである。</p>
徳島249	吉野川北岸土地改良区30年史編纂委員会編「吉野川北岸土地改良区30年史」(吉野川北岸土地改良区、2002年)、645-646頁、648-649頁	<p>吉野川北岸用水事業の事業効果</p> <p>当地区の農業用水改良事業実施に伴う効果としては、まず、①早明浦ダムにより安定した取水源が確保されたことにより高度の水利用が可能となり、生産性及び品質の向上が図れ、また、②冬期水利権及び畑地水利権の確保により周年灌漑が確立され、複合経営への移行の実施及び畑地の高度利用が図れる。③安定水源の確保により用排水の分離等ほ場整備事業の実施体制の基盤が整備され、労働生産性の向上に大きく寄与される。④期別必要水量の確保は、新生産技術の開発など例えば早期米栽培の導入による経営の安定が図れる。⑤安定した自然取水は水管理費が従前に比して格差があり労働生産性の向上が図れる。⑥地下水の涵養による農村の環境整備は農業用水ばかりでなく、他用途にもバランスよく活用が可能となる。⑦工法上の処置として、トンネル等埋設構造物工法による水路のため、従来の豪雨時に生じていた水路の決壊被害の解消と汚濁汚染水の流入が回避され、清浄な用水が確保でき、ハウス園芸、そ菜栽培に適す。⑧水路延長約69キロ余のほとんどが地下水路のため、水路建設に伴う用地の潰れが全く解消されている。⑨従来地下水取水の地域では自然流下水の取水への変更に伴い、維持管理費の節減が図れた。⑩各地域の土地改良区なり水利組合の統合(各町を一元化した町単位の土地改良区)により運営基盤の強化と維持管理費の節減が図れるなど夫々大きな効果が見込める。</p> <p>農業生産構造の変化</p> <p>吉野川北岸用水地区関係町の生産農業所得の構成比は事業開始前の昭和45年には畜産が50パーセント弱、水稻が20パーセント弱を占めていたが、現在においては水稻や工芸作物、養蚕に替わって野菜類が約35パーセントを構成し、また、割合は小さいものの花き類が順調な伸びを見せている。</p> <p>また、吉野川北岸用水は、年間を通して水利用ができることから「うまい米づくり、もうかる米づくり」の動きは北岸用水の水を利用した早期米の導入へと道を招くこととなった。</p> <p>このことにより、水田裏作を利用した、レタス、菜花など冬春野菜の導入を容易にすることとなり、併せて稲作転換の推進による、すいかや夏秋なす、トマト等の生産拡大に拍車がかかり、吉野川北岸用水の水利用により本地域の野菜の産地化が進んでいる。</p>

## 河川3 池田ダム(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川8	香川県編「香川県史 第七巻 通史編 現代」(香川県、1989年)、970-971頁	香川用水の通水 県民待望の香川用水の暫定通水式が行われたのは、昭和四十九年(一九七四)五月三十日、三豊郡財田町長野の東西分水工の施設地であった。吉野川の水を讃岐平野に導入することは、水不足に悩まされ続けてきた県民にとっては、昔からの夢であった。その願いがこの日ようやく実ったのである。そして、翌五十年六月からは池田ダムを通じて本格的な通水が開始されはじめた。それから十二年後の昭和六十二年度末までに導入された水量は一八億一五七五トンに達し、讃岐平野を潤すと共に、県民の生活と産業に大きく貢献し続けているのである。
香川22	引田町史編さん委員会編「引田町史 近・現代」(引田町、1995年)、268-269頁	香川用水引田支線水路 香川用水引田支線の工事について、石引池の上に「香川用水通水碑」にその概要が記されている。(中略) 吉野川総合開発計画ノ一環トシテ遠ク四国山脈ノ奥深く其処ニ源ヲ発シタ早明浦ダムヨリ池田ダムニ取水シ阿讃トンネルヲ通り讃岐ノ東端引田町吉田石引池ニ至リ其ノ水ハ農業用水及ビ上水道用水トシテ川股浄水場ヘポンプ送水シ 引田町ノ水需要ノ安定ヲ図ル(中略) 引田町に香川用水が配水され、千足ダム完成と合わせて、引田町の水不足も解消した。
香川26	白鳥町史編集委員会編「白鳥町史」(白鳥町、1985年)、673頁	香川用水事業 (中略) 徳島県三好郡池田町に建設された池田ダム(池田調整池)は、早明浦ダムと一連のダムで、池田ダム下流の吉野川の治水と、吉野川北岸用水および香川用水に必要な取水位の確保ならびに電源の開発を併せ行なう多目的ダムで…… (中略)この香川用水計画は、こうした本県の水需要を抜本的に解決するものとして計画されたものである。本町においても挙県一致で推進された香川用水事業の完成によって受益面積一八九・八ヘクタール(水量三七万九六〇〇トン)の恩恵に浴している。
香川29	長尾町史編集委員会編「改訂 長尾町史 下巻」(長尾町、1986年)、296頁	香川用水 (中略) 長尾地区における香川用水からの利水は、昭和五一年六月から導入し、農業用水に年間五六万トンの水を使用した。これが、昭和五八年には二二〇万トンの使用となり、約四倍の使用量である。水は昔から文化を運ぶともいわれているが、使用する量は、その地域の文化を計る尺度でもある。長尾町においては、さきに通水した前山ダムの水と、香川用水の水が中央部でクロスして大きな動脈になっている。この水はさらに付加性を高めて、長尾を発展させる水でもある。

## 河川3 池田ダム(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川85	満濃町誌編さん委員会編「新修 満濃町誌」(満濃町、2005年)、538頁	香川用水 (中略) 香川県は、<香川用水完成は、近代農業への第一歩>をスローガンとして次のような事業の効果を打ち出している。 ①農業経営の安定化 ②多収量の良品種の保証 ③水管理のむだな労力や費用を省く ④不合理な水利慣行の改善 将来の農業は、より少ない労力でより多くの生産をあげることで、そのためには潤沢な用水が基盤として考えられる。香川用水計画の完成によって用水が豊富になり、水利条件が均等で、ほ場整備も容易になった。機械化・協業化に適した土地条件となり、より少ない労力でより多くの生産の実現が可能になった。
香川86	仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」(仲南町、1982年)、895頁	香川用水記念碑 (中略)この事業完成によって従来の不合理な水利慣行に終止符を打ち佐文各池に統合され香川用水の近代的水利団体として発足することとなったこれで水不足は全く解消し将来当地域の営農向上に大いに貢献するものと期待している
香川92	高瀬町編「高瀬町史 通史編」(高瀬町、2005年)、684頁	香川用水 (中略) 香川用水の通水によって、水利慣行は一変し、新たな水利秩序が生まれたが……
香川93	観音寺市誌増補改訂版編集委員会編「観音寺市誌 通史編」(観音寺市、1985年)、588頁	香川用水 (中略) このようにして導き入れられた約四〇〇万トンの香川用水は、観音寺市から干害という自然災害を解消したばかりでなく、農業生産力を高め農業経営近代化を推進していく重要な根幹となっている。
香川98	新修豊浜町誌編さん委員会編「新修 豊浜町誌」(豊浜町、1995年)、275頁	香川用水 (中略)香川用水の恵みで、町内の田、約二七〇ヘクタール、畑、約一九〇ヘクタールが、水の心配をしなくてすむようになった。
香川105	豊中町小学校社会科副読本編集委員会編「豊中のすがた」(豊中町教育委員会、1992年)、114頁	水を求めてきた歴史 (中略)香川用水のおかげで農業用水をはじめ、工業用水・上水道の水不足の心配はなくなりました。
香川112	山本町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちのまち 山本」(山本町教育委員会、1997年)、115頁	香川用水 (中略) 香川用水の完成で長年苦しんでいた水不足がだいぶ解消され、香川の人々の喜びは、はかりしれないものがありました。

## 河川3 池田ダム(徳島県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川187	さぬき市史編さん委員会編「さぬき市旧五町史 続編 一津田町・大川町・志度町・寒川町・長尾町一」(さぬき市、2019年)、328頁	<p>香川用水事業</p> <p>大川町は、古来、水不足に悩まされてきた地域であったため、農業用水の確保に大変な苦労を重ねてきており、このような有史以来の水問題を解消したのが早明浦ダムを中核とする吉野川総合開発事業の一環として取り組まれた香川用水事業である。(中略)</p> <p>(中略) 町内の幹線水路は総延長六七三六メートルで、昭和五一年度に完成し、五二年六月には田辺池への通水テストが開始され、三六万トンの吉野川の水が大川町の水田一四〇ヘクタール(受益面積)を潤すことになった。</p>
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、980頁	<p>香川用水の通水</p> <p>(中略)</p> <p>四十九年に県民の長年の念願であった香川用水が開通し、吉野川からの通水により当面の水不足は解消されることとなった。</p> <p>(中略)</p> <p>香川用水が開通してからも、四十八年を上回る渇水が発生したが、給水圧力の調整や洗車、散水栓の封印はあったものの長期にわたる給水制限はなく事業の効果が発揮されている。</p>
四国40	四国地方整備局吉野川ダム統合管理事務所・柳瀬ダム管理支所編「吉野川上流ダム群のはたらき」(四国地方整備局吉野川ダム統合管理事務所・柳瀬ダム管理支所、2003年)、4頁、6-7頁	<p>吉野川のダム群</p> <p>(中略)</p> <p>吉野川の洪水を防ぎながら、この豊富な水資源を活用しているのが早明浦ダムを中核とした富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム、池田ダムのダム群です。(中略)</p> <p>吉野川のダム群は、豊かな河川環境を維持して洪水や渇水から暮らしをまもり、四国の発展を支えています。</p> <p>吉野川ダム群の洪水調節の効果</p> <p>平成9年9月16日に発生した台風16号の洪水では早明浦ダムへの最大流入量は5,100m<sup>3</sup>/秒(早明浦ダム完成後第2位の規模)となりましたが、洪水調節により水位を下げ、同時に柳瀬・新宮・池田の各ダムも洪水調節を行うことにより、吉野川下流域の浸水被害を大きく軽減させました。</p> <p>吉野川ダム群による渇水への備え</p> <p>(中略)</p> <p>ダムは、雨がたくさん降った時に、貯水池に水を貯え、晴天が続いた時には、ダムから下流へ水を補給し、吉野川の豊かな流れを守っています。</p>